

hap·py

→ go

→ luck·y

【ハッピー・ゴー・ラッキー】

形 〈人の行動が〉のんきな、気楽な。

名 10代におくるブックガイド。

はぴ
6号

2009年10月発行

【編集・発行】

さいたま市立中央図書館

さいたま市浦和区

東高砂町 11-1

TEL 048-871-2100

FAX 048-884-5500

HP <http://www.lib.city.saitama.jp/>

携帯HP



消防士



デザイナー



会社員



ミュージシャン



ボクサー

仕事 ヲ読ム



大工



犬



警察官



美容師

キミは
どうする？

『ルリユールおじさん』 いせひでこ作 理論社 2006年

大切にしていた植物図鑑が壊れてしまったソフィーは、本の修復師（ルリユール）を訪ねる。パリの路地裏の工房で、ルリユールの「魔法の手」が本をばらばらにし、ヘリを切り、糸でかがり、のりでかため…。いくつもの工程を経て、ぼろぼろだった植物図鑑がソフィーの目の前で生まれ変わっていく。

知識や物語や人生や歴史がつまっている本を、未来に向かって伝えていくのがルリユールの仕事。そんな職人の誇りと確かな製本技術は、父から子へと受け継がれたものだった。



『ロックンロールミシン』

鈴木清剛作 新潮文庫 2002年

サラリーマンを2年で辞めた賢司。友人の凌一が仲間と始めた洋服ブランドの仕事場に入り浸るが、正式に手伝う気にはなれない。再就職にも本気になれない賢司と、仕事は趣味の延長の凌一。

いったい働かってナンダ？

『おしごと図鑑』シリーズ

フレーベル館 2001～2006年

このシリーズでは、消防官・保育士・料理人・ナース・美容師・新聞記者・先生・大工の8つの仕事を、全ページイラストで紹介しています。

心得、プロの技、七つ道具、本音、休日の過ごし方、なり方などQ&Aつきで裏話も盛りだくさんです。

『アリスの見習い物語』 カレン・クシュマン作 柳井薫訳 あすなろ書房 1997年

14世紀イギリスの小さな村で、家も親も名前もない女の子が、食べるために「産婆見習い」として働き始める。ある日、産気づいたおかみさんのもとに一人取り残されてしまうが、心をこめて必死で世話をし、無事赤ん坊をとりあげた。初めて味わう誇らしさに、欲しかったのは「自分の居場所があって、おなかもちもみちたりた安らかな人生」だったのだと気づく。自らアリスと名乗るようになり、少しずつ産婆としての知恵と技を身につけ、いつか一人前になりたいという希望を胸に成長していく物語。

博物館学の専門家が描いた、中世のディテールにもこだわりのある作品。



『ピアノ調律師』 M.B.ゴフスタイン作 末盛千枝子訳 すえもりブックス 2005年

デビーは明るく元気な女の子。ルーベンおじいちゃんが好きで、夢はおじいちゃんと同じピアノの調律師になること。でも、息子夫婦を亡くしたおじいちゃんは、たった一人残されたデビーが心配で、調律師よりピアニストになってほしいと思っています。

そんなある日、町に偉大なピアニスト、リップマンがやってきました。彼の演奏を聴けば、デビーもきっとピアノを弾きたくなる。そう考えたルーベンですが…。

デビーの選ぶ道は？そして幸せな仕事の選び方とは？



『盆栽マイフェアレディ』

山崎マキコ作 幻冬舎 2008年

大宮から東武野田線で駅ふたつの盆栽村で盆栽師見習いとして働く繭子。兄弟子に手製弁当を売る程の貧乏暮らしだが、なぜかお台場に住むお金持ちの客に気に入られ…。

さいたまとお台場の間で揺れる女の子の成長物語。

『さよなら紛争 武装解除人が見た世界の現実』

伊勢崎賢治作 河出書房新社 2009年

「『平和』は願うだけではなく、獲得するもの」

自分を守るものは武器しかないという紛争地で、どうしたら兵士たちに武器を捨てさせることができるのか？ 平和を広告し、武装兵士と交渉を重ね、争いのない世界を作り出していく仕事を紹介。

『ぼくは「つばめ」のデザイナー 九州新幹線 800系誕生物語』

水戸岡鋭治作 講談社 2004年

車両の外観、シートや照明などの内装をはじめ、駅舎、制服までトータルに「旅の時間をデザイン」している水戸岡鋭治氏。

本書では、デザイナーになるまでの道のりと、新幹線「つばめ」の魅力やこだわりのデザインをたっぷり語ります。

裏

はぴ

～これもまた「仕事」のはなし～

このまなざしを見よ



大崎善生

さとし

『聖の青春』

大崎善生作 講談社 2000年

「大阪にいて、奨励会に入り
そしてプロになる」

「谷川を倒すには、いま、
いまいくしかないんじゃ」

—聖、13歳のことば—

かつて、村山聖というプロ棋士がいた。幼い頃に患った腎ネフローゼのために入院していた聖は、6歳の時初めて将棋と出会った。5年の療養所生活の中で芽生えた「プロ棋士になりたい」という熱い思い。闘病をつづけながら17歳で四段に昇格し、プロ棋士への一步を踏み出す。夢に見た谷川浩司王将への初挑戦は23歳の時だった。

「東の天才羽生・西の怪童村山」と称された村山聖の青春＝29年間の生涯をつづった1冊。

楽しい？
ツライ？
それが仕事だ！

「将来、何になりたい？」小さい頃からうんざりするぐらい聞かれてきたこの質問、そろそろ現実的になってきたのでは？

「なるにはBOOKS」シリーズ(ペリかん社)や『13歳のハローワーク』(村上龍作、幻冬舎)を読めば、具体的な仕事のことは分かります。

「はぴ」では、仕事をめざすきっかけ、楽しみ、苦しみ…仕事にまつわるいろいろな気持ちを感じてもらいたくて、この9冊を用意しました。

次回
予告

7号(1月発行)のテーマは「食べる」

